

シテ・レトル



LETTRE

2021
October
Vol.84 10

In order to promote the creation of an attractive Osaka, public and private spheres must link up and work together. The CITE Salon is an organization created as a forum for such collaboration. It was set up in January 1992 as membership organization with the slogan "Vibrant and Attractive Town Building towards a New Era"



Leader's Interview

関西経済同友会 代表幹事／株式会社プロアシスト 代表取締役社長

生駒 京子 氏

「アジャイル」をキーワードに
みんなを巻き込むまちづくりを

大阪食文化研究会ファイナルシンポジウム

大阪市への成果報告会

Event Topics

臨時幹事会・定例総会／CITEさろん30周年記念事業

圏域研究会／ソトから見た大阪研究会 など

Member's Voice

前役員・幹事＆新役員・幹事メッセージ



「アジャイル」をキーワードに みんなを巻き込むまちづくりを

新型コロナウイルスのパンデミックが猛威を振るっています。そんな中、関西・大阪は、アフターコロナを視野に入れて、行動をはじめています。今回、この度、関西経済同友会の代表幹事に就任された生駒京子氏にこれまでの関西・大阪の考えるべきこと、動くべき方向性などをお伺いしました。専業主婦から企業家に転身された多くの経験、豊かなAIについての知識などに基づいたお話を伺う貴重な機会をいただきました。

生駒 京子 氏 株式会社プロアシスト 代表取締役社長

Ms. Kyoko Ikoma

生年月日 1956年

出身地 京都市

1981年 3月 大阪電気通信大工学部 卒業

大学卒業後、大手ソフトウェア会社勤務、

専業主婦を経て、有限会社プロアシスト設立

株式会社に改組

現在に至る

2021年 5月 関西経済同友会 代表幹事 就任

■主な受賞歴

- ・経済産業省「ダイバーシティ経営企業100選」
- ・内閣府「女性のチャレンジ賞 特別部門賞」など
- 社外の役職
- ・関西経済同友会代表幹事
- ・大阪商工会議所 一号議員
- ・大阪産業局理事
- ・日本WHO協会理事
- ・生産技術振興協会理事
- ・大阪大学招聘教授など

●日本を救うために専業主婦から企業家に

松本:ご経験の中で大変興味深くぜひお伺いしたいのが“専業主婦から起業”ということですが、学生や会社員、専業主婦だった頃も含めて、起業に至った経緯などをお聞かせ願えますか。

生駒:学生時代は情報工学を専攻していました。卒業後は、今でいうICT系の企業に就職しましたが、すぐに出向になって違う会社の研究部門で働くことになりました。採用された会社には1日しか勤務しませんでしたね(笑)。それから2度、転職しました。そして、3社目の時に、家族に病人が出まして、私しか面倒を見る者がいなくて…。そこで、愛すべき会社員生活に泣く泣く終止符を打ち、介護と専業主婦という家庭に入りました。1993年くらいのことです。

そんな中、家族が3か月で元気になりました、その時に社会復帰の選択肢もあったのですが、両親が共働きということもあり、専業主婦がどんなものなのかよく知らなかったので、介護などのない純粋な専業主婦を体験してみる絶好のチャンスだと思って、1年3か月専業主婦に専念してみました。そこで考えたのが“専業主婦たるものは、料理の専門家。手の込んだ料理をつくるべし”ということでした。毎日、料理本を見ながらフレンチや和食…それはレストランや料亭に出てくるような本格的な夕食をつくりました。夫の弁当も残り物を入れてさっさとつくるではなく、時間をかけて凝ったものをつくっていたのです。

3か月ほど経った頃、夫が“僕はお茶漬けが好きやなあ”と一言漏らしたのです。それで、料理に没頭することは止めました。料理に費やしていた時間を何か他のことに使えないか、と求人広告を見ていたら、データ入力のアルバイトの求人を見つけたんです。当時、私はIBM5550という企業向けのパソコンを持っていました。以前勤めていた会社で中古を譲ってもらっていたんです。アルバイト先に行ってみると、近所の主婦の方々がワープロで入力作業をしていました。そんな中に、私はパソコンを持ち込んで、出版物などのデータ入力をしていました。夫が“お茶漬けいい”と言うので、朝から深夜までデータ入力に没頭して、1日2万字を打っていましたね。

データ入力を始めて4か月程経った頃、仕上がったデータを得意先に届けることになって出向いたんですね。そこで、得意先の方から“あなたが生駒さんですか。いつも丁寧で迅速な対応ありがとうございます。ぜひ、当社に入社してください”って言われました。その時は丁寧にお断りしたのですが、そこで思ったのが、“このままこの仕事を続けていくとアルバイト先に迷惑をかけることになるかもしれない”ということでした。そこで、このアルバイトを辞めることにしたのです。その後は、たっぷりある専業主婦の時間を

使って、社会情報を収集していました。テレビや新聞、雑誌、書籍などに徹底的に目を通す毎日を過ごしていました。当時は、バブル経済がはじけて間もない頃でしたから、何を見てもネガティブな情報であふれかえっていましたね。そんな中、私の頭の中には“これでは日本が沈没するのじゃないか”という不安感や危機感が広がっていました。そこで社会復帰ということが頭をよぎりだしてきたんです。そこで、産業界に復帰しようと履歴書を書きました。2度転職しているので、書いた内容はたった3行だけ。研究所仕事だったので守秘義務があり、詳細が書けないですね。“私ってあれほど産業界でがんばっていたのに書面にしたら、たった3行！なんて薄っぺらいんだろう…”って思いました。そこで、日本を救うにはというテーマで20枚程の企画書をつくったんです。内容は、将来、大手企業のR&D部門がアウトソーシング化される時代が来る。その橋渡し役を担って、日本の企業の開発速度を高めるお手伝いをしたい。そういうものでした。この企画書を金融公庫に持ち込んで、新規事業に対する300万円の無担保融資を得ることができました。これが卒業から起業に至るまでの経緯です。

松本:ところで、起業をお決めになる時の、ご夫婦間の会話が有名なエピソードとして知られているようですが、そのお話を聞かせていただいてもよろしいですか。

生駒:夫は技術屋で、すごく優しくて温厚で、声を荒げたりすることもない、素晴らしい人物です。彼のお母さんはずっと専業主婦をされていたこともあって、妻は専業主婦がいい、という理想があったようです。だから、私が専業主婦になったことに満足していました。ところが、産業界に復帰したいと私が言い出したものですから、少しご機嫌が斜めになってしま…。産業界に戻ろうかな、という話はいつも夕食の時にしていたのですが、彼は“僕が一生懸命に働くから、専業

主婦のままでいいんじゃない”って返してくるんですね。2週間連続で毎日同じ話をしていたら、彼がいつなく声を荒げて“そんなに言うなら勝手にしたらいい!”と言いました。私は思わず“勝手にしていいのですね。ありがとうございます。あなたが最初のお客様です。よろしくお願いします”と彼の手を握りながら答えました。さすがに彼は、高ぶった感情の置き場所が見つからずにきょとんとしていました。それ以来、勝手にさせてもらっています(笑)。

松本:これまで会社を発展させてこられた経緯などをお聞かせ願えますか。

生駒:1994年、お客様のお困り課題を解決するために弊社を立ち上げました。アルゴリズム解析がメイン業務です。アルゴリズムには①画像処理、②音声処理、③最適化、④判断という4つの要素がありますが、いわゆるAIです。ただ起業した頃は、ちょうどインターネットの黎明期で、私はケンブリッジ大学の旧コンピューター研究室が配信していた「トロイの部屋」というコーヒーサーバーだけをひたすら写す動画を一晩中見たりしていました。そこで、ホームページの仕事がしてみたいと思い、会社員時代にお世話になっていた大学の先生方にアプローチして契約を取っていました。それらの仕事が評判になって、次第にオファーが入るようになってきました。起業して8年経って、北浜に進出したのですが、それまではWeb関連の仕事がメインになっていましたね。ところが、Windows95が登場してから、さまざまなデザイン会社がこの領域に進出してきて、“他の会社がやっているならうちでやるのはもういいか”と考えて、少しずつフェードアウトして、それ以降は、一兎を追う如く腰を据えて本業に注力しています。

◎会社とは、みんなでつくっていくもの

田上:私が今、気になっているのは“会社を経営するとはどういうことなのか”という



ことです。アフターコロナが言われている中で、AIを使っていかに会社を発展させていくのか、経営者としての目線と従業員の目線があると思いますが、今後の会社経営に関するビジョンなどをお聞かせ願えませんか。

生駒:私たちは、大手企業のR&D部門のアウトソーシング会社として立ち上がってますが、10年目くらいに社員から“僕たちはいつまでアシストなんですかねえ”という声が出てきて、“私はアシストが最高だと思っているし、有限会社も最高だと思っている”と答えていました。ある社員が結婚式のスピーチを頼んできた時に、お祝いは何がいい?と尋ねたら、“会社を株式会社にしてほしい”と言っています。当時、有限会社でしたのが資本金は1,100万円でした。そこで税理士の先生に相談したら“明日にもできるよ”と言うので“先生の一日の報酬を考えたら3万円くらいか…それなら株式会社にするか”ということで、お祝い代わりに株式会社にしたんです。後日、先生から15万円の請求書が来て、高いお祝いになったなあと大笑していました。

社員たちは“こんなことしていきたい、あんなことしていきたい”とお客様の課題を解決することで生きてきましたけれど、社員たちがどういう風に進んでいきたいか、彼らも課題解決するために世の中の役に立つためにどういう会社でありたいかを考えているはずなので、取り入れられるものは取り入れていきたいと考えています。

一般的な会社は、創業時はともかく、なるべく人、つまり経営経験、マネジメント経験の豊かな人がトップに立っています。一方、私は経営についてはズブの素人です。会社員は一生懸命にやっていました。管理職経験も少しだけあります。でも、経営については

経験がありませんでした。そんな私が経営をするのですから、一人社員が入ってくれる度に、その人たちと知恵を出し合って、その人たちといっしょに身の丈に合った成長を続けてきました。要は“いっしょにつくりあげていく”28年経ちましたけど、社員たちといっしょに作り上げていく姿勢を続けてきました。

几帳面でしっかり管理する担任の先生と破天荒で無頓着な担任の先生とどちらのクラスが成長すると思われますか。実は、破天荒な先生の方が生徒ががんばらないといけないので生徒が成長します。まさしく弊社がそんな感じです。私は私なりにがんばっていますが、私には、いわゆる大企業の経営者のような当たり前のルールといいますか、こうでないといけないといったことがありません。こういうようになりたい、こういうようにしたい、という社員さんと同じような感覚があります。よく社員さんが言っています。“社長は、ちゃんと紐でくくっておかないとどこに行くかわからない”と。こうなると社員さんがしっかりしていくような気がしています。

●アジャイルをキーワードに スピード感を持って進めていく

田上:関西経済同友会の代表幹事に就任されたということで、女性ならではの視点での関西・大阪を元気にするためのさまざまな計画をお持ちだと思います。それをお聞かせ願えますか。

生駒:私のような者がみなさんにお話しするようなことは何もないと思っています(笑)。ただ、私のような者がみなさんの中に入つたということは、まさしく多様性だと思つ



ています。これまで、男性中心かつ大企業中心で関西の経済界を引っ張ってきてくださってきた、大きな渦をつくってくださっていたと思います。

最近の開発手法に“アジャイル”というがあるんですね。これは、ある程度の完成度で市場に出て、そこから100%に育てていこうという手法です。日本は100%の完成度をもって市場に出そうと努力しますが、他国は70点や80点で市場に出てきます。あのマイクロソフトでさえ、100%に満たないで発売したりしています。この“アジャイル”的手法をこれからのまちづくりに活かせないかと考えています。今、私は豊中市の諮詢委員をさせていただいているのですが、豊中市は市政にアジャイルを取り入れてくださっています。とにかく動いてみる。動いて不具合が発生したら、直ちに修正してまた動く。例えば、今回のワクチン接種のケースでも大規模会場を開設するのではなく230ある市内の開業医の方々にワクチン接種を依頼してムーブメントをつくられました。いつも通っているかかりつけの医院で接種するのが一番いいという判断でいち早く動かれたのです。

このように関西・大阪の取り組みも行政のお達しを待つというのではなく、まず自らいち早く動くということが大切だと思います。例えば、2025関西・大阪万博はもう決定事項なので、いわば関西圏はどこも万博特区だと言ってもいいと思います。だから、開催年を待たずとも今から実証実験ということにして、さまざまな取り組みにチャレンジしていくことが必要だと考えています。今、南海電鉄がなんば再開発ということで、日本橋などの地元といっしょになって動いていらっしゃいますね。いい取り組みだと思います。このように、私の持ち味はフットワークの軽いところなので、さまざまなところに出向いて行って、さまざまな情報を取りながら、何かしら財界として関西・大阪のお手伝い

ができたら、周りを巻き込んでいくような動きができたらいなと思っています。そのためにも万博開催の2025年まで毎年達成目標をつくりながら、小さなアジャイルをたくさん積み重ねていきたいものです。

今回、代表幹事に選んでいただいて、任期は2年なのですが、元々産学連携をしてきた関係で、経済産業省や文部科学省、総務省にはプロアシストの名が通っているので、その強みを活かして行政ともつながっていきたいと考えています。今は、コロナ禍の影響でなかなか東京に行けない状態ですが、足しげく通って関西・大阪の取り組みをお伝えしながら、情報共有をしていきたいと思っています。あと、関西にある近畿経済産業局や近畿財務局などの省庁の出先機関とも情報交換をしながら私たちが聞けない情報、彼らが知り得ない情報をもっとフランクに共有できるようにしていきたいものです。

今までの財界の活動は、大御所同士の会話が多く、太い幹のような話は進むと思うのですが、枝葉のような情報が入りにくくて活動が回り切らないところもあったように感じています。私は、その枝葉の部分をしっかりと受け止めていきたいと思うのです。電車でもそうですが、支線があってこそ本線がつながりますね。そのような視点で活動していきたいと考えています。

私の任期のメインは来年になるのですが、今年は日本中の経済同友会の方々とコミュニケーションを取って、来るべきメインの年には、経済同友会の全国統一にチャレンジしてみたいと考えています。まるで織田信長のような壮大な夢ですが。そのためにも、今はなかなか会えませんが、全国の経済同友会のみなさんとごあいさつをして、しっかりとつながっていきたい…それを今年のミッションにして、がんばっておられる関西経済同友会の古市健代表幹事をしっかりと支えていきたいと考えています。



●もっと巻き込み、もっと知らしめる

松本:最後にCITÉさんに一言いただきたいのですが。我々CITÉさんでは、今回のコロナ禍を経験して社会が大きく変わる中、アフターコロナは都市もデジタル化やICTを受け入れていくのだろうと考えています。とは言え、コロナが終息したら、また人間味のある賑やかなまちにしていきたいという思いの中で、デジタル化をうまく浸透させる方法についてみんなで議論しています。そこでぜひ、ICTが専門である生駒社長から、経済同友会の代表幹事としてのお立場からでも結構ですので、これからCITÉさんにエールをいただけたらと思っております。

生駒:これからは、大阪をどんなまちにしていくか、という具体的なビジョンが必要だと思います。だから、CITÉさんが描く未来の大坂のような未来予想図をつくっていただきたいな、と。マップのような可視化したのですね。アジャイルでいいので、つくっていただきたいのです。そういった“見えるもの”があれば、それを見た人が想像力を働かせて、さまざまなアイデアを出せると思うんですね。「この川に沿ってドローンタクシーを飛ばすと面白い」とかね。

CITÉさんのみなさんは、インフラをつくる人たちの集まりですよね。みなさんと考えていらっしゃる壮大な計画にたくさんの人たちを巻き込むような動きをしていってほしいな、と思います。メンバーの中だけで完結するのではなく、周囲を巻き込んで、実際に動かしていってほしいと思います。

そして、CITÉさんの動きを広く知らせください。知ってもらってなんぼ、とも言います。失礼ですが、私は今日までCITÉさんの存在を知りませんでした。お話を伺って、



素晴らしい団体だと感じています。ぜひ、その素晴らしい活動を広く世間に知らしめていくようにしてほしいと思います。

今、「○○DAYS」がブームですが、「CITÉさんDAYS」のようなイベントを開催して、たくさんの人を巻き込んで、知ってもらうのもいいかもしれませんね。

30年近くにわたって、大阪のまちづくりに貢献してきたCITÉさんのこれから活動に大いに期待しています。

松本・田上:今日はお忙しい中、お時間をいただき、また、貴重なお話をたくさん聞かせていただきました。

本当にありがとうございました。



インタビュアー
松本 利典 氏
阪急阪神不動産株式会社・CITÉさん副会長

田上 祐暉 氏
株式会社NTTドコモ・CITÉさんWSメンバー

取材場所 株式会社プロアシスト談話室
取材日 2021年8月4日(水)11:00~13:00

※三者での撮影は、新型コロナウイルス感染拡大に鑑みて、十分に対応した上で、マスクを外して実施しています。ご了承ください。



大阪食文化研究会

大阪食文化研究会ファイナルシンポジウム

1. 開催概要

- (1) 日時: 2021年3月30日(火) 14時30分~17時30分(リアル開催・参加者52名)
(2) 会場: 大阪俱楽部 4階ホール
(3) テーマ: ~2025大阪・関西万博を機に「大阪を変える」「大阪が変わる」~
「楽食都市・大阪グリーンリカバリービジョン2030」をオール大阪で実現する
(4) プログラム
① 基調講演: 世界が一斉に舵を切る「Food5.0」の時代 ~ミシュランガイドの新指標「グリーンスターについて」~
日本ミシュランタイヤ株式会社 執行役員 ミシュランガイド事業部 本城 征二 氏
② 話題提供: 「楽食都市・大阪グリーンリカバリービジョン2030」~未来の大アクションプラン~/有限会社ハートビートプラン 岸本 しおり 氏
③ パネルディスカッション
■ テーマ: 「楽食都市・大阪グリーンリカバリービジョン2030」をオール大阪で実現する
■ パネリスト
・ 和田 真治 氏(南海電気鉄道株式会社 執行役員 まちづくり創造室長/CITÉさろん会長)
・ 斎藤 由佳子 氏(株式会社GEN Japan 代表取締役社長/オンライン参加)
・ 谷 直樹 氏(大阪くらしの今昔館 館長)
・ 尾藤 環 氏(辻調理師専門学校・辻製菓専門学校 企画部長 産学連携教育推進室長/CITÉさろん大阪食文化研究会アドバイザー)
■ モデレーター: 角野 幸博 氏(関西学院大学総合政策学部 教授/CITÉさろん大阪食文化研究会 座長)
④ 名刺交換を主体とするショート交流会
⑤ 4年間の御礼:CITÉさろん副会長 上田 徹 氏

2. 要旨報告

(1) 基調講演

① 「ミシュランガイド」発刊の歴史

世界第2位の売上高220億ドルを誇るタイヤメーカー・ミシュランは1889年創業後、空気入りタイヤを開発。金持ちの道楽であった自動車への意識改革を図るために、「空気入りタイヤをつければ、遠くまで快適なドライブが楽しめる」と、1900年、旅のガイドブックの製作がミシュランガイドの始まり。日本上陸は「東京2008」がアジア初、「京都・大阪2010」が2番目。

② 「ミシュランガイドの評価のしくみ

- ・ 調査員は、1日平均3万km移動、年間250食・150泊して1,000件以上のレポートを書くミシュランの正社員です。身分を伏せ、一般顧客と同様に食事して支払う匿名性がミシュランガイドの特徴。
・ 評価は、料理のみが対象(接客サービス、店の設えは対象外)。料理のカテゴリーに関係なく、1)素材の質2)料理技術の高さ3)味つけの完成度4)独創性5)常に安定した料理の一貫性、の世界同一基準で、【三つ星】そのために旅行する価値のある卓越した料理、【二つ星】遠回りしても訪れる価値のある素晴らしい料理、【一つ星】近くに訪れたら行く価値のある優れた料理、【ビブルマン】価格以上の満足感が得られる料理、【ミシュランプレート】星獲得には至らなかったが、ミシュランの基準を満たしている料理、が「スターミーティング」*で評価されます。※調査員、各の編集部ディレクター、インターナショナルディレクターの合議制
・ 現在世界33カ国でミシュランガイドを展開し、三つ星126店/日本22店、二つ星467店/日本88店と、今や日本は世界一の美食都市です。
【ミシュランの星付きレストラン数】世界第1位: 東京212軒、第2位: パリ115軒、第3位: 京都110軒、第4位: 大阪96軒、第5位: NY65軒
③ 「ミシュランガイドの新指標「グリーンスター」」の新設

「Sustainable Mobility」というミシュランのDNAを継承し、四季折々の美食を提供するためには、サスティナブルな取組を読者に広くPRすべきとの想いから2020年1月、ミシュランガイドの新指標「グリーンスター」が誕生しました。

グリーンスターの評価ポイントは、(1)エネルギー(2)節水(3)フードロス削減(4)生態系保全(5)水産資源の保護(6)伝統野菜・環境配慮型農産物の使用(7)フードマイレージ削減(8)人材育成、です。

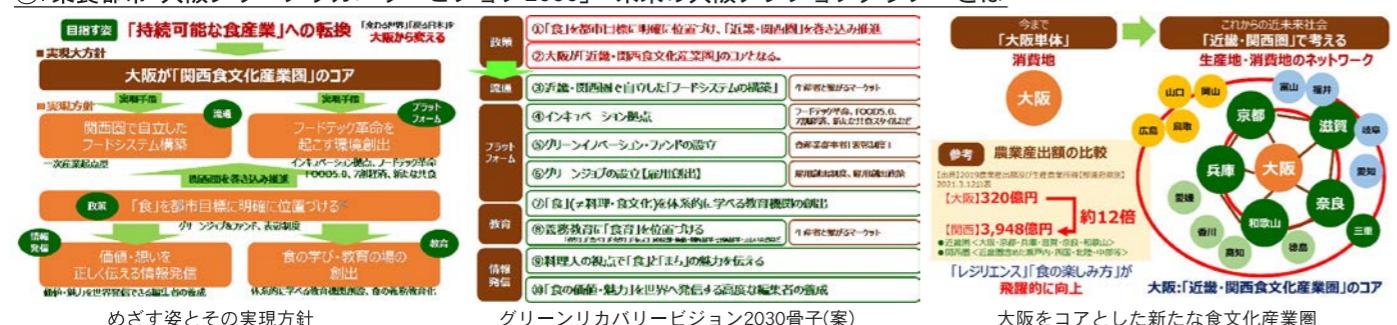


(2) トピック提供

① 「食」のグリーン・リカバリー政策の重要性

- ・ (1)世界規模で破綻するフードシステム*(2)世界の食志向**から大きく乖離する「大阪の食の現状」***の2課題を同時に解決する手法として、環境先進・欧州を中心に始動中の「グリーン・リカバリー政策」に注目。グリーン・リカバリーとは、「COVID-19による景気後退を世界共通の優先課題: 脱炭素、SDGs等の環境重視の投資とその実行により、サスティナブルな未来社会を構築する経済回復手法」です。ステークホルダーに地球が加わり、今後環境配慮のない産業は経済的にも成立しない時代の大転換点の到来をCOVID-19が気づかせてくれました。※兆ドルの赤字、世界CO2排出量の4割、世界生産食料の割廃棄、毎年全世界で繰り返される現行のフードシステム、※※健康長寿、環境、高品質、安全安心、※※安物、買いたき、価値をPRできる食べ手、伝え手の意識、レベル向上、学びの場がない等
・ そこで大阪食文化研究会4年間の集大成として、意識の高い国内外の顧客と投資を呼び込み、「環境&経済」両立の視点から世界規模で破綻する現行のフードシステムをイノベーションする日本初の「食文化産業政策」を、欧州先進国同様、大阪の都市目標に位置づける政策提言を行いました。

② 「楽食都市・大阪グリーンリカバリービジョン2030」~未来の大アクションプラン~とは



(3) パネルディスカッション

話題提供された「楽食都市・大阪グリーンリカバリービジョン2030をオール大阪で実現する」をテーマに、①万博と食との深いつながり「過去」「現在」から「未来予測」する~2025大阪・関西万博における「食」とは~、②大阪の新たな産業政策として「食」のグリーンビジネスのボテンシャルを探る、③「楽食都市・大阪グリーンリカバリービジョン2030」をオール大阪で実現する「意義」と「価値」を、サブテーマにご議論いただきました。主な提言は以下のとおり。

- ①「サスティナブル」という時流に則した「食文化戦略&戦術」の打ち出し。
- ②環境配慮のない産業は経済的にも不成立。「循環経済」が最重要。
- ③食文化は地域固有の「人のくらしの文化」。魅力的に発信できるストーリーテラー養成が急務。
- ④歴史に学ぶことができる日本の強みを活かす。「生活文化」「都市文化」という大阪の優れた歴史文化資源の積極活用。
- ⑤1970万博以降の大阪衰退を繰り返さないために、オール大阪で連携して意義と価値あるニューノーマルを発進。
- ⑥適地適量、人と人のつながり、継承など「常にいのちを吹き込み続けている価値」が循環共生。
- ⑦「食とグリーンを都市に絡める」世界最先端の知見を2025万博の先の未来社会にデザインする。

3. 「大阪食文化研究会」4年間のまとめ

(1) 4年間の活動成果: 計15回の研究会を開催し、延べ72名のゲスト講師にご講演、話題提供いただきました。

(2) 研究成果

- ① 大阪初の「食の大規模実態把握調査」結果にもとづく「大阪の食の未来デザイン」構築
阪急・阪神・JR西日本・近鉄・京阪・南海・大阪メトロの7鉄道事業者、ソト研、研究活動委員会、辻調、委託先、CITÉさろん事務局等が一体となり、大阪初の「食の大規模実態把握調査」を実施。2018年度76件、2020年度13件: 合計89の食関係機関から最新の知見収集に成功。とりわけwithコロナ・ヒアリング調査では、(1)7割経済(2)Farm to Fork戦略(3)「都市経済起点型」から「一次産業起点型」への経済システムの移行(4)世界規模で破綻する現行のフードシステム(5)大阪食文化産業圏の再編:「近畿圏・関西圏で捉え直す」の5知見を収集し、グリーンリカバリービジョン2030に反映。
- ② オール大阪の食の推進組織「食創造都市・大阪推進機構」の設立支援
大阪の食文化研究は、これまで地元行政・経済団体など多くの機関が出掛けてきましたが、食動向調査結果でも、現場の声は圧倒的に不満が多く、食の現場に研究成果が生かされていない課題に直面しました。そこで2018年1月15日の大阪5社懇談会の場で、「インバウンド観光のより強固な推進のため、「食・スポーツ・ウェルネス」をオール大阪で取り組むこと」を全会一致で承認。大阪商工会議所・大阪観光局が連携し、2019年11月26日、「食創造都市・大阪推進機構」が設立されました。この設立にCITÉさろん大阪食文化研究会も少し助力しました。



2018・大阪5社懇談会に出席したトップの方々

③ 「大阪の誤解」を解く行動に奔走

CITÉさろん大阪食文化研究会活動期間中は、(1)「世界の食志向」と乖離する大阪の食の現状(2)大阪は世界有数の「歴史都市・文化都市」(3)世界に冠たる「大阪食文化」など、大阪内外で「大阪の価値・魅力」をPRし、大阪でくらし・働き・学ぶ大阪人自身の大阪に対する誤解を解く行動に奔走したことが懐かしい想い出です。

④ 世界に冠たる「大阪食文化」とは…

4年間を総括し、3月30日のファイナルシンポジウムの場で、「これが世界に冠たる大阪の食文化だ」と発信させていただきました。(1)始末&くいだおれ【環境】(2)軟水が生んだ昆布だし【健康】(3)高精度な味覚(4)「美味しい&便利」を産み出す知恵。僭越ながら、ほぼこの4点であると確信します。いにしえの時代から世界の食志向「環境」「健康」「高品質」を先取り、永年「都」が置かれたことで鍛えられた「高精度な味覚」。そして美味しいだけでは満足せず、「美味しいと便利を産み出すあくなき探求心と知恵」を加えた大阪食文化は大変意義深く、世界に冠たる日本が誇る文化です。人工物の総重量が地球上の生物の総重量1兆1千億tを超える看過できない時代。モノの始まり大阪から日本・世界を変える覚悟のもと、次は国内初の「食のグリーン・リカバリー事業」にオール大阪で挑戦しましょう。

最後になりましたが、角野座長はじめアドバイザーの先生方、オブザーバーをお務めいただいた大阪市都市計画局・経済戦略局、辻芳樹校長はじめ辻調理師専門学校の先生方、7鉄道事業者及びソト研のスタッフ、大商、観光局、食動向調査にご協力いただいた89機関。そして歴代CITÉさろん会長、研究活動委員会メンバー、事務局、委託先ハートビートプラン。本当に多くの方々にご指導・ご支援賜り、4年間の研究を無事完遂することができました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

来年1月、創立30周年を迎えるCITÉさろんに課せられた使命は、今や決められた枠や領域などありません。時代の要請上、今後は「学ぶ」を考えるから、共に「行動」する時代に移行すると予想します。物怖じすることなく、共に邁進して参りましょう。

研究活動委員会では、今年度から「圏域研究会」という特別研究をスタートしました。「食文化研究会」「圏域研究会」の次は「遷都研究会」かも知れません。「食」の崩壊は「都市」の崩壊。~「いのち輝く未来社会のデザインこそ「食」なり」~。



(文責／研究活動委員会: 上田)

「大阪食文化研究会」大阪市への成果報告会

1. 開催概要

(1) 日時:2021年7月27日(火) 10時30分~11時30分

(2) 会場:大阪市役所 政策企画室 中応接室

(3) 出席者:22名(大阪市14名、CITÉさろん8名)

■大阪市:高橋副市長

○都市計画局:角田局長、宮本理事、吉備理事、西村企画振興部長、山田計画部長、上溝開発調整部長(食文化研究会オブザーバー)、開発計画課員4名

○経済戦略局:花澤観光部長(食文化研究会オブザーバー)

○政策企画室:平野政策調整担当部長、他1名

■CITÉさろん:大阪食文化研究会アドバイザー:角野座長先生、尾藤先生、勝見先生

和田会長、研究活動委員会:上田副会長、河端副委員長、事務局:速水、野々山

(4) 次第:①成果報告:30分(CITÉさろん上田副会長)

②意見交換:30分

2. 要旨報告:4年間の活動成果をダイジェスト報告した後、高橋副市長はじめ、大阪市関係者と意見交換を行いました。

○高橋副市長

2017年からの広範囲にわたる研究活動に感謝申し上げる。2年に1度のWS成果報告会を楽しみにしており、今回も食文化に関する4年間の成果報告を楽しみにしていた。単なる技術屋では取り組めない範囲まで大きな方針を打ち出していたとき、「どう返そうかと困っていた」。本当に的を射た提案だ。新たな関西ブランド戦略として、食文化をどう展開していくかが大事だと痛感した。

○花澤観光部長

コロナが落ち着けば何がしたいかの民間調査で、増やしたい旅行と減らしたい旅行の問い合わせ、「地元の美味しいものを食べたい」が増やしたい旅行の第1位であった。食創造都市・大阪推進機構の検討にもCITÉさろんの研究成果が大いに生かされている。

○角田都市計画局長

日頃まちづくり、都市開発、インフラ整備ばかりに従事しているため、食文化について説明いただく機会がなく、全て新鮮に感じた。その中に大阪の歴史や食文化など大切なものが都市に潜在し、決して文化的に京都に劣るものではないと再認識した。

○高橋副市長から、各部局で「やって欲しい」意見が求められるとともに、都市計画局、経済戦略局の両部長に対し、この提案書についてCITÉさろんメンバーと実現に向けて協議するよう指示がありました。なお、CITÉさろんから以下の提案を行いました。

■CITÉさろん側の主な提案

①フランス国家戦略のように都市目標に「食文化政策」を明確に位置づけることが重要。

②食を切り口に界隈・エリアを特徴づけ、個性づける。場所や土地の格など、食文化の見える化と場所への落とし込みが重要。

・大阪市内の消費地と生産地とのネットワーク

・グリーンリカバリーや辻調のような教育機関とのネットワーク

・難波の奥に広がる食の大生産地・和歌山とのつながりは、食のデザイン上、大変重要。

・土地の価値・魅力が商品・食べ物に直結するテロワール:つながりと場所の個性・魅力をPRでき、価値化につながる。

③大阪として、いのち輝く未来社会に「食」を大きなテーマとして打ち出すだけの価値はある。

④IRなど今後の都市計画を考える上で、外国人材の確保は急務。食調達とも大いに関連する。

⑤食は人が集まるキラーコンテンツ。都心から臨海部へ連続するまちづくりと食産業発展とをリンクさせた政策立案が重要。

・「地代」という都市型産業の致命的課題を克服する上で、都心から連続する「都心臨海部」が果たす役割は大変重要。

(文責／研究活動委員会:上田)



角野先生の説明を聞く高橋副市長



当日、同席いただいた角野先生、尾藤先生、勝見先生

まちづくりを考える、体験する、多彩なイベントを開催しています。

臨時幹事会・定例総会

2021年5月31日(月) 15:30~17:30

オンライン開催

緊急事態宣言下、

第30回定例総会は、

初めてオンライン開催となりました。

臨時幹事会で、総会の議題と、上村顧問の後任に篠原氏への変更が承認されました。定例総会には、大阪市都市計画局上溝開発調整部長、(一財)都市技術センター永井理事長の出席のもと、和田会長の挨拶ではじまり、2020年度事業報告・決算報告があり、柴田会計監事から執行は適正との報告がありました。2021年度事業計画については、30周年記念事業検討、圏域研究会の立ち上げの他、各事業の活動方針が原案通り承認されました。



和田会長ごあいさつ

CITÉさろん会長をやらせていただいている南海電鉄の和田でございます。

緊急事態宣言下で、こうしたリモートでの開催となりましたが、たくさんの方にご参加いただきありがとうございます。

当会ですが、年が明けますと30周年を迎えます。全国でも、まちづくりを研究する民間主体の官民連携団体で、これほど長く続いている例はないとお聞きします。これまで携わって頂いた方の大変なご努力があったからこそと心より感謝を申し上げます。

30周年にあたりましては、キーワードを「TSUMUGU」とし、この1年のCITÉさろんの方針にしたいと思っております。「過去を踏まえ将来の活動に」「WSの提言をどう政策に」「CITÉさろんの活動を幹事会社の事業に」「広く広報して社会に」それぞれどう紡いでいくか、などの議論を行うことで、CITÉさろんや大阪の将来を考え、『行動変革の1年』としたいと思います。そして、幹事の皆様が全員参加いただけるような運営を行い、30周年を機に、新たなスタートとなるような21年度にしたいと思います。皆様とともに、頑張らせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。



CITÉさろん会長
和田 真治 氏
南海電気鉄道株式会社
執行役員
イノベーション創造室副室長
新規事業部長

CITÉさろん30周年記念事業

お祝の会は2022年7月28日に開催予定。

CITÉさろん30周年記念事業に向けての活動を

総務委員会の大辻真一氏が報告します。

皆さまご存知の通り、我らのCITÉさろんが、来年1月ついに設立30周年を迎えます。CITÉさろんは、「新しい時代に向けた活力と魅力あるまちづくりの推進」をスローガンに、異業種の企業が一体となり産官学の連携も含め様々な成果を残して参りました。

この記念すべき節目を迎えるにあたり、現在の会員企業の皆様は勿論のこと、設立から今までCITÉさろんの活動を支えて下さった関係者の方々もお招きし、リモートではなくリアルな場でお祝いの会を開催すべく、企画検討を始めています。当初は設立月の1月に開催する計画もありましたが、新型コロナの影響を出来るだけ避けるとともに、「なにわの日」にも因みまして、来年2022年7月28日に開催予定です。

このプロジェクトの牽引役となるメンバーは、CITÉさろんのベテランメンバーで構成される「チーム30」、今後のCITÉさろんの成長を担うワークショップメンバーで構成される「ヤング30」、そして総務委員会のメンバーです。この貴重な機会を契機に、CITÉさろんの今までの活動と成果を振り返ると同時に、これからCITÉさろんの未来に向けた新たな方向性を皆で議論したいと考えています。

今考えているテーマは「紡ぐ」。人と社会、社会と企業、過去と未来を「紡ぐ」という観点から、これからCITÉさろんの在るべき姿を皆さんでじっくり考える良き機会となるよう検討して参ります。是非皆さんからご意見やご希望もお寄せ頂き、CITÉさろん30周年記念事業を成功させたいと思います。

引き続き皆様のご協力ご支援の程、どうぞ宜しくお願い致します。

(総務委員会:大辻、白水)



総務委員会とチーム30の代表



ヤング30のメンバー

圏域研究会

2021年8月30日(月)16:00~17:30

オンライン開催

8月の定例幹事会に続いて、

特別研究「圏域研究会」の

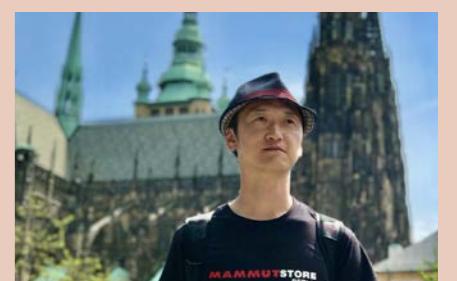
第1回オンラインセミナーを開催致しました。

まず、三菱UFJリサーチ＆コンサルティングの沼田主任研究員から話題提供として、コロナ禍において生じている変化をデータで示して頂きました。京阪神都市圏の人口動態は、東京圏のような「郊外化」を示していないこと、東京圏に比してテレワーク率が低いことなど、我々の実感がデータで裏付けられました。また、全国共通の傾向として、巣ごもり需要を反映した消費行動の変化や公園需要の増加などのデータが示されました。次に、関西大学社会学部松下慶太教授から「ポストコロナのワークスタイルと都市」というテーマでご講演頂きました。まずは、テレワークとオフィスワークのハイブリッド・ワークスタイルの広がりを海外の事例を交えながら、ご紹介頂き、「リモートとオフィス」あるいは「パケーションと仕事」のバランスを取るという従前の考え方から、これら相反すると思われる組合せを「重ねる(Superimpose)」思考が重要であることが強調されました。都市とオフィスの関係では、コワーキング・スペースなどのパブリック・スペースの位置づけが拡大し、都市に存するオフィスに求められるものは、企業文化や価値観を象徴するモニュメント性、特殊なソフトや機材が持つ高機能性などになるとの将来像が示されました。

最後にワーケーションでは、ワーカー自発的な欧米型と異なる日本型(企業や地域が推進)を作っていくチャンスであり、自律型人材の確保や地域共創によるESG推進が企業にとってのメリットとして示されました。

ご講演後は、今後のオフィスのあり方や人事制度について、参加者を交えて活発な議論がなされました。

(研究活動委員会:西元)



ご講演いただいた、松下関西大学教授



ディスタンスを確保した配信拠点

まちづくりを考える、体験する、多彩なイベントを開催しています。

ソトから見た大阪研究会

大阪を「ソトから見る」、大阪の「ソトから学ぶ」ことを通じ、多様な価値観や視点で得た情報や意見をとりまとめ、都市の価値創造や女性の活躍、多様性を活かしたまちづくりのヒントとする「ソトから見た大阪研究会」の活動について紹介します。

■今期(2020~2021年度)の活動の方針

昨年度より「新しい価値観と心地よいコミュニケーションから生まれる、これからのまちづくり」をテーマに活動しています。昨年度は、次の3つのイベントやヒアリングを実施しました。①『コロナ禍における暮らし方・働き方の変化』に関するアンケート調査の実施、②ゲストハウスの休業中や自宅待機中でも皆が豊かな時間を過ごせるようにと、オンラインでその町の観光や旅先の人との出会いなど自宅にいながらも旅行気分を楽しむことができるという、和歌山県那智勝浦町にあるゲストハウス「WhyKumano Hostel & Cafe Bar」が実施する「オンライン宿泊」の体験やヒアリング、③リアルな街に加えオンライン上にまたがる「きよてん」を設け、さまざまな「しごと」を行い、報酬として「つうか」を受け取ることで循環していく、リアルとオンラインを介した「人と人のつながり」を目指した活動を行う「シェア街」について、株式会社 LittleJapan代表取締役シェア街主催の柚木氏にヒアリング。その中で、自身のライフスタイルや地域コミュニティへのかかわり方を見直すような大きな価値観の変化を感じ、価値観の変化がもたらす私たちの「暮らす」「働く」「訪れる」場であるまちの影響について更にヒアリング・調査したいと考え、今年度は、さらに深めるために、
 ・方向性1:ニューノーマルのライフスタイルに応じた新たなまちづくりに求められる事とは?
 ・方向性2:オンライン・オフラインの掛け合わせにより、相乗効果を生むような、ニューノーマルの時代に応じた、コミュニケーションのあり方とは?
 という方針のもと、活動しております。

い関係と、それを支える場がある」「新しい活動や仕事がほどよく常に生まれている」状況をめざし、スピード感と柔軟性をもって実現していました。

上勝町では、再資源化率80%を達成するなど、エコタウンの先駆けとして世界に新しいライフスタイルを発信し、国内外から多くの人が視察やゴミゼロ体験に来られており、私たちソト研もゼロ・ウェイストを中心とした上勝町のまちづくりに着目し、視察・ヒアリングを行いました。



上勝町ゼロ・ウェイストセンターWHY



45分別のゴミステーション

■徳島県「神山町」「上勝町」にて視察・ヒアリングを実施しました

・視察日:7月2日(金)
 ・視察先:『神山町』(徳島県神山町)
 代表理事・馬場達郎さん(一般社団法人 神山つなぐ公社)
 『上勝町』(徳島県上勝町)
 CEO 野々山 聰さん(合同会社パンゲア)

神山町では、一般社団法人神山つなぐ公社の代表理事・馬場達郎さんより、2016年からスタートされている創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」など、地方創生等の取り組みについてヒアリングしました。神山つなぐ公社ではこのプロジェクトを、神山町とそのつながりの中に、「多様な人材がいる」「よ



子育て世代が集まる大集合住宅

小杉湯・小杉湯となりでは、1933年創業の国登録有形文化財指定の銭湯『小杉湯』を中心に、点と点を線に、線と線を面にして、高円寺でのまちづくりを進められています。2020年3月、小杉湯の隣に1階はカフェ、2階はワークスペース、3階は貸しスペースとして『小杉湯となり』を開業。コロナ禍での開かれた場の運営の変化や、点から線、面へとつなげるまちづくりに着目し、視察・ヒアリングしました。



小杉湯となりの2階ワークスペース



国登録有形文化財の小杉湯

RYOZAN PARKでは、「より豊かな人生はシェアからはじまる・Life is better shared」という哲学のもとに、シェアハウスから100%英語の託児施設併設のシェアオフィス、キッチン付きシェアオフィスなど個性的なシェア施設を展開されています。在宅ワー

クが増え、新しい働き方が模索されている中で、Withコロナの中でのシェアオフィスをはじめとする新たな場づくりのあり形に着目し、視察・ヒアリングしました。



シェアオフィス内のプリスクール



ブースタイプのシェアオフィス

■徳島県「神山町」「上勝町」および東京都「小杉湯・小杉湯となり」

「RYOZAN PARK」での視察・ヒアリング調査内容を

共有する「視察結果レビュー会」をオンラインで実施しました

・実施日:7月28日(水) 10:00~11:00 ・参加者:15名

視察結果レビュー会では、約15名の方にお集まりいただき、ソト研がヒアリングしてきた視察先の内容を共有いたしました。ご参加の方からのご質問やご感想などを意見交換させていただき、視察内容の理解を深めることができたと感じております。

●ヒアリング内容の詳細は、追って「ソトから見た大阪研究会」ホームページにアップ予定ですので、ぜひご確認ください!
<https://citesalon.jp/sotoken/> (会員限定)

■SOTO会2021イベント内容を企画・検討しています

下記の通り、ゲストスピーカーをお招きしたトークイベントを企画・検討しております。コロナの感染状況も鑑みながら詳細検討中ですので、決まり次第改めてご案内させていただきます。ぜひご参加のほどよろしくお願ひいたします。

1. 概要

日 時 2021年10月12日(火) 15:00~17:00

会場での開催時は、同会場にて交流会あり17:00~17:30

会 場 β本町橋(大阪市中央区本町橋4-8)

参 加 者 25名程度

※新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインとリアル会場の併用など開催方法を変更する可能性があります。

2. イベントスケジュール

はじめに ソトから見た大阪研究会(15分)

第1部 基調講演(講演60分、質疑10分)

■テーマ:「街の起点を変える! シェアオフィスを中心とした新しいコミュニティづくりと地域価値の向上」

■ゲスト:尾崎 えり子氏

(Trist代表/株式会社新閃力/NPO法人コヂカラ・ニッポン副代表)

第2部 トークセッション(35分)

・ゲスト×ソト研×ご参加いただいた皆さまとのトークセッション

交流会(30分程度) ※会場での開催時のみ ※ゲストとの名刺交換など交流会となります

(分科会活動委員会:ソトから見た大阪研究会 新谷)

これからの主なイベント・スケジュール

◆第1回プロジェクト見学会

<地域研究会第1回「先進事例視察」として実施>

・日 時:2021年10月6日(水) 15:30~17:30(オンライン開催)

・テーマ:丹波篠山市「おためし地方暮らしプロジェクト」(協力:JR西日本)

・プログラム

Short lecture①

「丹波篠山市および本市の移住動向」/丹波篠山市 創造都市課 垣内 由起子 氏
丹波篠山暮らし案内所 廣岡 和哉 氏

Short lecture②

「丹波篠山市における地域プランディング」/株式会社Local PR Plan 安達鷹矢 氏
Short lecture③

「株式会社NOTE事業紹介&篠山まちづくりの将来展望」/株式会社NOTE 代表取締役 藤原 岳史
鼎談及び会場対話

◆テーマフォーラム

・日 時:2021年10月15日(金)14:40~17:30(オンライン定例幹事会と併催)

・テーマ:「これからの大阪のまちづくりに必要な視点」

・特別講演:「市内各所で進むまちづくりについて」/大阪市都市計画局長 角田悟史 氏

・鼎 談:「ポストコロナにおける大阪都市圏の展望」

○篠原 祥 氏(ARC地域力研究所代表、前・大阪市都市整備局長、CITÉさん顧問)

○上善 恒雄 氏(大阪電気通信大学総合情報学部教授、大阪市都市計画審議会委員)

○角野 幸博 氏(関西学院大学建築学部長、元・大阪市都市計画審議会会長)

・まとめ:「創立30周年を迎えるCITÉさん」

CITÉさん会長 和田 真治 氏

◆第1回CITÉトークセッション

2021年度全体テーマ

「官民連携による持続するまちづくりの更なる可能性を求めて」

・第1回テーマ:ICT・スマートシティを中心とした他都市の取り組み(仮題)

・日 時:2021年度10月22日(金) 17:00~19:00(オンライン開催)

・講 師:松崎 太亮 氏(神戸国際大学教授、元神戸市企画調整局ICT連携担当部長)

◆自主活動プログラム

・日 時:2021年11月4日(木) 15:00~17:00

・テーマ:(仮題)『木』を使う時代を学ぶ』

・演 題:(仮題)竹中工務店の木造建築への取組みについて

・講 師:竹中工務店 大阪本店設計部構造部門 専門役 西崎 隆 氏

・次年度「竹中大工道具館」見学予定

《今後、予定されているイベント》

◆トークセッション<第2回11月、第3回12月開催予定>

◆地域研究会オンラインセミナー<年度内に3回開催予定>

◆幹事研修会<11月上旬開催予定>

◆さんとーく<12月定期幹事会と併催予定>

◆CITÉまちづくりシンポジウム<2022年1月末~2月上旬開催予定>

◆大阪都市格研究会・5期第1回研究会<2022年2月頃開催予定>

◆親睦ゴルフコンペ<年度内に開催予定>

◆CITÉ LETTRE Vol.85<年度末発行予定>

※今後のコロナの感染状況により、開催方法等の変更が生じることがあります。

前役員・幹事と新役員・幹事からメッセージが届いています。

前CITÉさん顧問 上村 正美氏

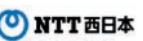
CITÉさんと関りを持って20年以上、WSリーダー、広報委員長、副会長、会長を経て、この度顧問を退任しました。会社の立場を離れ、広い視野でまちづくりを考えられたことは貴重な経験になりました。特に幹事研修会では北海道から沖縄まで各地のまちづくり活動を視察できたころは大きな財産です。コロナ禍で活動も制限されますが、これからもCITÉさんを盛り上げていただきたいと思っております。これまでお世話になり、ありがとうございました。



阪急電鉄株式会社
上席常務取締役
都市交通事業本部長

前CITÉさん総務委員長 樋口 浩子氏

1年間という短い期間でしたが、総務委員を担当させていただき、みなさまには大変お世話になりました。ありがとうございました。コロナ禍で、幹事研修会や懇親会等CITÉさんの醍醐味である「リアルな触れ合い」はなかなか叶わなかったことがとても残念でした。一方、リモート環境の導入等工夫することで、活動を継続させることができたのは幸いでした。CITÉさんの益々のご発展と30周年記念事業の成功をお祈りしております。



西日本電信電話株式会社
兵庫支店長

前CITÉさん幹事 赤井 博幸氏

約4年間、由緒ただしいCITÉさんの幹事として大変お世話になりました。幹事研修会や食文化研究会、WSなど各委員会での研修や視察等を通じてまちづくり等の勉強を様々な観点から学ぶ事ができました。1年以上続くコロナ禍において、CITÉさんの活動もニューノーマルへ変遷し、皆様との懇親の場が少なくなった事が心残ります。アフターコロナでのCITÉさんの30周年記念事業の成功と益々のご発展を祈念いたします。長い間お世話になりました。本当にありがとうございました。



株式会社ドコモCS関西
法人事業部 法人サポート部
コンタクトセンター
コンタクト担当部長

前CITÉさん副会長 岩崎 貞治氏

CITÉさんを離れて早や6か月ほどが過ぎようとしておりますが、皆さまにおかれましては如何お過ごしでしょうか？小職は2017年4月から(前任は久保氏)2021年3月末(後任は田中氏)まで、丸4年間お世話になりました。CITÉさんは、大阪全体の再生をテーマに勉強をさせて戴くとともに、会員企業様は勿論のこと、様々な方々との交流が大きな財産となりました。この場をお借りして、お世話になった全ての方々に心より感謝申し上げます。30周年を迎えるCITÉさんが益々発展し、次の40・50周年に向けて、大阪・関西エリアの再生の一翼を担う事を心よりご祈念申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせて戴きます。



株式会社エヌエーク
監査役

新CITÉさん顧問 篠原 祥(しのはら やすし)氏

5年ぶりにCITÉさんに復帰しました。大企業から離れた者にとってとても光栄なことです。会員が増え、活動も活発で、参加意識も高く、「CITÉさんはえらいことになってるわ」というのが率直な感想です。副会長時代に会員企業による自律的な運営の実現に奔走したことが少しあはお役に立てたのかなあと感じています。大阪ガスでの経験、都市整備局長としての視点、まちづくりコンサルタント&プレイヤーとしての知見をフル活用してがんばりますので、みなさんよろしくお願いします！



ARC地域力研究所
代表

新CITÉさん副会長 田中 雅人氏

世界中にスマートシティを標榜する都市がたくさんあります。では、日本版スマートシティとは何か。当方は「ハードとソフトの技術によって、すべての市民が利便と安全を享受し、そのQOLが向上する都市(エリア)」と認識しています。たとえIT技術が関与していないても、かつてないしくみや方法で市民のQOLが向上するのであれば、その取組みはスマートシティへの道だと思います。その意味では、CITÉさんの活動は、まさに都市大阪をスマートシティにいざなうベースメント的な位置づけと思い、その任務にとてつもないやりがいを感じます。



大阪ガス株式会社
大阪・奈良・和歌山地区統括支配人

前CITÉさん会計監事 豊田 桃介氏

2017年から会計監事と広報委員を担当させていただき、大変勉強になりました。4月に東京本社に異動して夢の単身赴任生活を期待していましたが、コロナ禍で禁酒と自炊生活を強いられ、体重が10キロ減りました(!)現在は街づくり推進室という部門でおもに法定再開発案件を追いかけています。現部門で学んだことをいつか大阪で実現できることを夢見て働いています。関西魂で頑張ります。CITÉさんの益々の発展をお祈りしています。



清水建設株式会社
街づくり推進室
副室長

新CITÉさん総務委員長 白水 靖郎氏

CITÉさん30周年記念事業の企画のタイミングで総務委員長を務めさせていただくことになり、大変やりがいを感じています。CITÉさんの30年を振り返ると、「失われた30年」はどこのことか…、と思ってしまいます。一方で、ビヨンド・コロナは良い意味で変革の機会だと考えます。大阪の「これまで」を大切にしつつ、大阪の「これから」について、皆様と一緒に取り組んで参りますので、よろしくお願い致します。



中央復建コンサルタンツ株式会社
常務取締役
経営企画本部長

新CITÉさん会計監事 赤木 和彦氏

前任の豊田から引き継いで会計監事と広報委員会の委員に就任させて頂きました。和歌山で生まれ、20代後半から40代前半まで関西にて勤務、その後8年間の東京勤務を経て21年4月関西に無事帰還致しました。リアルに交流が出来ない環境ではございますが、雑賀大先輩の指導を受けながら会計監事や広報委員として大阪・関西の活性化に取り組み、1日も早くお役に立てるよう精力的に活動していきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



清水建設株式会社
関西支店
開発営業部長

前CITÉさん幹事 中西 和也氏

2017年から研究活動委員を4年間務めさせて頂きました。思い起こせば、前職時にも年に数回参加しており、約10年以上に亘り、皆さんと有意義な時間を共有することが出来ました。またWSや研究会に若手社員が参加する機会を得て、参加企業の皆様と一緒に街づくりを考える機会を頂き、有難うございました。今後は有意義なリアル交流会が開催でき、CITEさんが益々発展することを祈念しています。



NTTアーバンバリューサポート株式会社
関西事業部
事業部長

新CITÉさん幹事 藤原 武氏

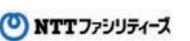
本年4月より赤井の後任として新たに参加させて頂きました。日頃は目の前の事に捕らわれがちですが、参加させて頂く中で「大阪の街にどう貢献するか」という皆様の熱い思いに感化され、日々の会話でも「社会に対して…」といった発言が少しづつながら増えてきたように思います。壮大なテーマに対してまだまだ未熟ですが、1日も早くお役に立てるよう努力して参りますので宜しくお願い致します。



株式会社NTTドコモ
関西支社 法人営業部
第三営業担当部長

新CITÉさん幹事 野島 正人氏

本年7月より幹事を務めさせて顶きました。早速7月1日の定例幹事会に出席いたしましたが、皆様のCITÉさんに対する熱い思いを感じました。コロナ禍の出口が見えない中いろいろと工夫を懸らしながらの運営となろうかと思います。大阪万博を4年後に控え益々大阪全体が変わっていくことかと思います。皆様と一緒に未来の大坂を描いていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



株式会社NTTファシリティーズ
関西事業本部 副本部長
営業部長

前役員・幹事と新役員・幹事からメッセージが届いています。

前CITÉさんん幹事 岡田 真嗣氏

6月24日付で四国に赴任致しました。5年あまりの間、皆様には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。昨年よりコロナ禍で対面活動がままならず少し残念ではありました。三陸震災復興、広島・尾道の街作り活性化等数々の視察とプロジェクト見学会で弊社「GOOD NATURE STATION」をリアルにご視察いただけたのがさらに貴重な思い出となりました。他で得られないネットワークや知見をいただいたCITÉさんんに感謝申し上げるとともに、活動の益々のご発展を祈念しております。


Kinden

株式会社きんでん
執行役員
四国支社長

新CITÉさんん幹事 佐藤 守良氏

名古屋、東京勤務を経て、再び故郷大阪の地に戻り、5年振りにCITÉさんんに再入会させていただくことになりました。新型コロナウィルスの影響により先の見えない想定外の状況が続いていますが、その中で何ができるか知恵を出し、課題を解決し、まちづくりの活性化に貢献できるよう、また大阪の魅力を全国に発信していくよう、微力ながら取り組んで参ります。本会を通じて、皆様方と交流させて頂けることに感謝を申し上げます。


Kinden

株式会社きんでん
取締役
常務執行役員

新CITÉさんん幹事 滝本 泰士氏

本年7月にCITÉさんんへ参加させていただくことになりました。日頃は様々な方とご議論や連携させていただきながらICTを活用した地域課題解決や街づくりに取り組んでおります。当さんの皆さまとの様々な活動や交流を通じまして魅力ある大阪のまちづくりをご一緒に推進していければと考えております。よろしくお願いいたします。


NTT西日本

西日本電信電話株式会社
ビジネス営業本部 エンタープライズビジネス営業部
エンタープライズビジネス推進部門
地域プロデュース担当 スマートシティ推進グループ
担当部長

前CITÉさんん幹事 南谷 雅和氏

2019年7月より2年間お世話になりました。担当の分科会活動委員会も含め、もっとお役に立ち満喫したいと思っている矢先でしたので、2020年9月に研究活動委員会のプロジェクト見学会で弊社「GOOD NATURE STATION」をリアルにご視察いただけたのがさらに貴重な思い出となりました。他で得られないネットワークや知見をいただいたCITÉさんんに感謝申し上げるとともに、活動の益々のご発展を祈念しております。


KEIHAN

京阪ホールディングス株式会社
経営企画室
事業推進担当 部長

新CITÉさんん幹事 酒井 勇治氏

今回のコロナ禍は「人と人が会うことが、あらゆる社会経済活動の原点である」ことを改めて教えてくれました。その原点を大事にしてきたCITÉさんんの活動に参加できることをとても光栄に感じています。現在は様々な制約を受けていますが、創意工夫で乗り越え、活力あふれる大阪のまちづくり・都市格向上に貢献できるよう、努力して参りますので、皆様宜しくお願ひ申し上げます。


KEIHAN

京阪ホールディングス株式会社
経営企画室
事業推進担当 部長

新CITÉさんん幹事 小原 和浩氏

本年4月より研究活動委員会に参加させて頂いております。昨年来からのコロナ禍にあって、委員会活動も制限されリアル開催が難しい状況ではありますが、「プロジェクト見学会」や今年度から取り組む特別研究活動「圏域研究会」を通じて、コロナ後の大阪や京阪神都市圏のまちづくりの在り方などについて、委員会の皆様と共に研究させて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。


阪神電車

阪神電気鉄道株式会社
都市交通事業本部工務部
副部長

前CITÉさんん幹事 原田 大氏

2018年度から3年間、研究活動委員会のメンバーとしてお世話になりました。短い間でしたが、多くの方にお会いし、いろいろなお話を伺い、様々な施設を視察する機会に恵まれ、大変有意義な時間を過ごすことができました。これも役員をはじめ幹事の皆さま、そして事務局のご苦労の賜物です。本当にありがとうございました。今後のCITÉさんんの発展とみなさまのご活躍を祈念しております。


阪神電車

阪神電気鉄道株式会社
人事部長

新CITÉさんん幹事 小縣 一隆氏

初めまして！このたび、歴史と伝統あるCITÉさんんに前任者から交代、入会させていただくことになりました小縣です。私自身は都市開発や地域活性化等に直接携わった経験はありませんが、銀行マン時代の転勤や単身赴任による「風の人」歴は長めですのでその経験でお役に立てればと思います。ご迷惑をおかけしないよう早く慣れたいと思いますのでよろしくお願いします。


住友電設

住友電設株式会社
執行役員
営業本部副本部長

新CITÉさんん幹事 酒井 勝久氏

当社は、三菱商事(株)から国内における不動産開発事業のスピナウトを受け、不動産開発と運営を行う総合デベロッパーであります。物流施設や商業施設の開発に加え、複合用途の再開発や、横浜赤レンガ倉庫等の商業施設運営も行っています。大阪支店は2019年に開設したばかりですが、CITÉさんんを通じて、皆さま方と情報共有を図り、大阪のまちづくりに少しでも寄与していきたい所存です。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。


三菱商事都市開発

三菱商事都市開発株式会社
取締役
大阪支店長

前CITÉさんん幹事 西堀 正樹氏

約3年という短い期間でしたが、いろいろ皆様にお世話になりました。私が所属していた研究活動委員会だけでも、見学会、シンポジウムや食文化研究会など、実に盛りだくさんの活動を行っていて、皆さんの大変への熱い想いを感じることができました。本来なら直接お会いしてご挨拶したいところでしたが、それもかなわず申し訳ありません。今後のCITÉさんんの更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。


三菱地所設計

株式会社三菱地所設計
執行役員
技術管理部長

新CITÉさんん幹事 鬼澤 仁志(きざわ ひとし)氏

本年4月より前任の西堀に代わりCITÉさんんのメンバーとなりました。依然としてコロナ禍により活動が制限されではあります、研究活動委員会を中心にお世話になっていきたいと思います。昨年より、19年振りに関西に住み、大阪の街は大きく変わったと感じました。まだまだボテンシャルのある街だと思いますので、更なる発展のために、皆様と一緒に大阪のまちづくりに貢献していきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。


三菱地所設計

株式会社三菱地所設計
関西支店長
うめきた2期プロジェクト室長

CITÉ



株式会社IAO竹田設計

JR西日本不動産開発
株式会社

株式会社KANZOテクノス



株式会社NTTドコモ



NTT都市開発株式会社

株式会社
NTTファシリティーズ

株式会社アーキエムズ



浅井謙建築研究所株式会社



大阪ガス株式会社



大阪市高速電気軌道株式会社



大阪地下街株式会社



株式会社奥村組



オリックス不動産株式会社



鹿島建設株式会社



関西電力株式会社



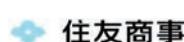
株式会社クボタ

京阪ホールディングス
株式会社

株式会社ザイマックス関西

サンタリー
コーポレートビジネス
株式会社

清水建設株式会社



住友商事株式会社



住友電設株式会社



積水ハウス株式会社



ダイキン工業株式会社



For a Lively World

大成建設株式会社



想いをかたちに 未来へつなぐ

株式会社竹中工務店



中央復建コンサルタント

株式会社



東京建物株式会社



飛島建設株式会社



南海電気鉄道株式会社

西日本電信電話
株式会社西日本旅客鉄道
株式会社

EXPERIENCE, INTEGRATED



株式会社日建設計



パナソニック株式会社



阪急電鉄株式会社



阪急阪神不動産株式会社



阪神電気鉄道株式会社



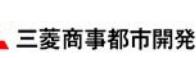
富士通株式会社



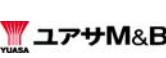
三井不動産株式会社



三菱地所株式会社

+ EMOTION ふを動かし、未来をつくる。
株式会社三菱地所設計

三菱商事都市開発株式会社



ユアサM&B株式会社

Event Calendar

2021年度 CITEサロン イベント・カレンダー

◎2021年度

4/20	火	14:30	◆常任幹事会・4月定例幹事会	総務	オンライン開催
5/26	水	15:00	◆2020-2021年度WS1(第4回)	分科会	オンライン開催
5/31	月	15:30	◆臨時幹事会	総務	オンライン開催
		16:30	◆定例総会	総務	オンライン開催
6/ 3	木	15:00	◆2020-2021年度WS3(第4回)	分科会	オンライン開催
7/ 1	木	16:00	◆6月定例幹事会	総務	伊藤祐クリエイトセンター
		16:45	◆圏域研究会 キックオフセミナー	研究活動	
7/ 2	金		◆ソトから見た大阪研究会 視察(徳島県)	分科会	神山町、上勝町
7/ 8	木	15:00	◆2020-2021年度WS2(第4回)	分科会	伊藤祐クリエイトセンター
7/14	水		◆ソトから見た大阪研究会 視察(東京都)	分科会	小杉湯、小杉湯となり、RYOZAN PARK
7/20	火	15:00	◆2020-2021年度WS3(第5回)	分科会	伊藤祐クリエイトセンター
7/27	火	10:30	◆大阪食文化研究会 高橋副市長報告会	研究活動	大阪市役所
7/28	水	10:00	◆ソトから見た大阪研究会 視察結果レビュー会	分科会	オンライン開催
8/30	月	15:00	◆8月定例幹事会	総務	オンライン開催(配信拠点:御堂会館)
		16:00	◆圏域研究会 第1回オンラインセミナー	研究活動	
9/ 1	水	15:00	◆2020-2021年度 WS1(第5回)	分科会	オンライン開催
9/ 9	木	15:00	◆2020-2021年度 WS3(第6回)	分科会	オンライン開催
9/11	土		◆親睦ゴルフコンペ	総務	延期
9/15	水	11:00	◆常任幹事会	総務	オンライン開催
9/17	金	15:00	◆2020-2021年度 WS2(第5回)	分科会	オンライン開催
10/ 6	水	15:30	◆第1回プロジェクト見学会(丹波篠山)	研究活動	オンライン開催(配信拠点:丹波篠山)
10/12	火	15:00	◆ソトから見た大阪研究会 SOTO会2021	分科会	β本町橋(予定)
10/15	金	14:00	◆10月定例幹事会	総務	オンライン開催(配信拠点:御堂会館)
		14:40	◆テーマフォーラム	研究活動	
10/22	金	17:00	◆第1回トークセッション	広報	オンライン開催

■ホームページを開設しています!
<http://www.citesalon.jp/>
(一部会員専用ページがあります)



編集後記

Vol.83発行以降、大阪では緊急事態宣言が4/25~6/20、8/2~現在、その間、まん延防止等重点措置の適用と、ずっとコロナ感染防止を心掛けながらの生活が続いている。マスク生活にも慣れましたが、飲食店等での酒類提供自粛や禁止も継続し、CITEサロンの重要な活動の柱である交流会も久しく開けていない現状に、何とも言えぬ心情です。

会員の皆さん、特に新たに幹事になられた方々は、オンラインを中心とした会合に、もどかしさを感じておられることと存じます。7/1開催の定例幹事会をリアルで開催できたときの皆さまの様子から、その思いを一層強くしました。

この状況下、CITEサロンの活動を進める中、これまで距離が抵抗となっていたこと、例えば遠方の識者による講演が可能となり、またリモートでも参加ができるなどの、メリットも感じつつ、やはりリアルで会員相互のみならず、講師の方々ともお会いし、意見交換できればと思います。

CITEサロン30周年記念事業も、リアルな交流が実現されることを願っています。(事務局)

表紙写真:株式会社プロアシスト談話室から見た
中之島公園の水辺と天満方面のまち並み



シテ・レトル 2021年10月号 Vol.84

発行/CITEサロン事務局
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2-2-5
船場センタービル5号館2階
一般財団法人 都市技術センター 内

企画/CITEサロン広報委員会

編集/Alemvix